

～雑感～

北見医師会
北見赤十字病院

すずき
鈴木 のぞみ
望

原稿執筆の依頼があり、只々思いつくままに書いてしまいました。

2023年（令和5年）春の大型連休が終わり、チシマザクラの花吹雪に続いて、遅れて開花したサクランボ（和名セイヨウミザクラ）の白い花がそれこそ異次元の美しさと感じられる時季になりました。我が家の愛犬「ムギ」と散歩をしながら木々花々の写メをとり、自宅に戻っては最近購入した「樹木図鑑」の解説を見てそれぞれの名前に目星を付けるのが趣味となっています。私事ですが、連休直前に挙行された甥っ子の神前結婚式（パワースポットとして有名ならしい東京都府中市の大國魂神社にて）、そして、連休後半に行われた親戚の葬儀がコロナ前と同じ形式で実施され、「人と人のかかわりや暮らしが平常」に戻ったことを実感しています。

5月8日には、令和2年1月から丸3年以上続いた新型コロナウイルス感染症（COVID-19）はようやくにして感染症法における2類から5類に移行され、コロナ感染症蔓延・泥沼の時代（パンデミック）は新たな局面を迎えようとしています。仮想空間にでも入り込んだように感じられる3年間に何があったのか。新聞紙面には365日、日本や世界中の感染状況、患者数、死亡数が報告され続けました。何をするに

してもまずはコロナ感染症が優先され、人流抑制とコミュニケーション抑制がパンデミック対策として行われました。感染対策というよりは壮大な実証的疫学研究の様相を呈していたと思います。予防薬としてのmRNAワクチンはずいぶん開発されましたが、インフルエンザ並みに有効な治療薬が開発されたとは思われません。マスク着脱にともなう世論の分断、日本人特有の自粛警察なる言葉も生まれました。救急医療の現場では、救急搬送困難事案（救急隊による病院紹介回数が4回以上で現場滞在時間が30分以上の事案）が頻発し、医療ひっ迫～医療崩壊という言葉が久々に囁かれるようにもなりました。発熱患者をすべての医療機関で診ることになれば解決できる問題かもしれませんが、ポストコロナでも注意が必要な社会問題になったと思います。

一方、コロナ禍における特筆できる良い変化として、インターネット・WEBの普及やデジタル技術の進展、AIの進化などコンピューター関連の発展にはめざましいものがあります。学会運営におけるWEB併用化はとて有意味で、地方で耳学問をしているものとしては現地に参加しなくても楽に勉強できるようになりました。趣味の囲碁棋戦のAI解説にはただただ驚嘆するばかりです。

3年間を総括するには甚だ陳腐な感想になってしまいましたが、ポストコロナの時代がどのようなものになるのか注視していきたいと思っています。最近、老化現象を強く感じるようになり、趣味のゴルフはこの2年間できなくなっていました。物置にしまってあったゴルフクラブを出してきたので、あとはゴルフ場に行くだけです。

もうひと頑張りしよう！！

北海道医報「会員のひろば」投稿募集

◇情報広報部◇

北海道医報では、「会員のひろば」への投稿を募集しています。記事の内容は自由です。医療情勢、診療で日頃から感じること、趣味・紀行、エッセイ、自己紹介等でも可です。

1. 記事制限：1記事あたり1ページ以内。
2. 文字数：600～1,000字（1段分）または1,600～2,000字程度（2段1ページ分）
※いずれも写真・図含まず。
3. 掲載：掲載可否および掲載号は広報委員会にて決定します。
4. 原稿送付先：ihou@m.douji.jp
5. 問い合わせ先：011-231-7661（情報広報部）